

2019年2月12日

立教大学国際学術研究交流制度
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	文学部・教授
	氏名	石黒 広昭
受入学部・研究科・研究所		文学研究科
招へい 研究員	所属・職	Assistant Professor, School of Education and Communication, Jönköping University 所属機関所在国：スウェーデン
	氏名	Robert Lecusay
招へい期間		2019年2月1日～2019年2月9日（9日間）
研究経費		348,860円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2019.2.1	来日
2019.2.2	第7回立教大学教育研究国際セミナー「現代スウェーデンの幼児教育制度下における子どもと教師の学習と発達」 セッション1 スウェーデンにおけるプレスクール教師の教育実践の現代的課 2月2日(土) 13:30-16:30 立教大学 16号館第1会議室 研究者、学生、一般 約30名
2019.2.3	セッション2 調査研究法としてのペダゴジカル・ドキュメンテーション:スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアード・プレスクール事例の活動理論による分析 2月3日(日) 13:00-16:30 立教大学 16号館第1会議室 セミナー後、大学院生への研究指導 約30名
2019.2.7	研究協力幼稚園、こども園の見学と国際共同研究の打ち合わせ 6名

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

■ Lecusay 博士はカリフォルニア大学サンディエゴ校でコミュニケーションと認知科学の学位を取得し、現在はスウェーデンにある、レッジョエミアに触発されたプレスクールで子どもたちの遊びを中心に、学習と発達の研究を行っている。スウェーデンでは、教育について二つの大きく異なる考え方が存在し、論争を展開している。一つは従来からある北欧の社会ペダゴジー(social pedagogy)に基づいたもので、健康、身体発達、情動の健全さ、社会的コンピテンス、コミュニケーションスキルを重視する見解である。それに対して、近年 OECD による国際学力調査 PISA の影響もあり、就学前施設での活動の学校化が進んでいると言われる。そこで強調されるのは就学準備として数学、言語、リテラシーなどの学力保障を重視する見解である。スウェーデンでは、日本における保育所と幼稚園の区分はなく、educare を旗印に、プレスクールのすべての子どもに教育を保障する状況にある。イタリアのレッジョエミア市を中心としたレッジョ保育の見解は子どもたちの学習を民主主義の育成の過程として捉えているが、スウェーデンでもこの流れに与するプレスクールが多くあり、従来の社会ペダゴジーを維持しながら、さらに創造的で、民主主義的な就学前教育を実現しようと努力している。Lecusay 博士はこうした立場を取るプレスクールで実践研究を続けており、その発達心理学的検討を重ねてきた。今回の来日では、日本のプレスクール、児童生徒の教育実践に関わる研究者、実践者が集い、日本とスウェーデンを比較しながら、世界的な教育の現代的課題を検討した。参加者には鹿児島や兵庫など遠方から来られた方もおり、非常に活発に議論が展開し、セミナー両日ともに予定時間を超える議論がなされた。さらに、研究協力をしてきている日本の先進園と一緒に訪問することもでき、それに基づいて今後の国際共同研究について議論をすることができた。

■セッション1 スウェーデンにおけるプレスクール教師の教育実践の現代的課題

持続可能な開発のための教育と教授が同時に求められている現代スウェーデンにおけるプレスクール教師の教育実践

日時：2月2日(土) 13:30-16:30

場所：立教大学 16号館第1会議室

企画・ディスカッサント：石黒広昭（立教大学）

司会：内田祥子（高崎健康福祉大学）

通訳：井上知香（常葉大学短期大学部）

このセミナーではESDが環境教育と同義であるとする誤解が多いことを指摘し、そこには社会的問題の解決も含められていることが改めて確認された。その上で、スウェーデンでどのような理論的検討がなされているのか、また、どのような実践が就学前施設で行われているのか、実践者の課題は何かなどが話し合われた。

■セッション2 調査研究法としてのペダゴジカル・ドキュメンテーション：スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアード・プレスクール事例の活動理論による分析

日時：2月3日(日) 13:00-16:30

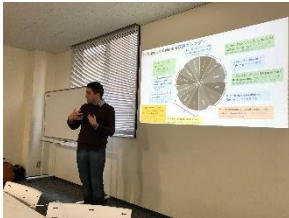
場所：立教大学 16号館第1会議室

企画・コーディネーター：石黒広昭（立教大学）

通訳：井上知香（常葉大学短期大学部）

ディスカッサント：白石淑江（愛知淑徳大学）・浅井幸子（東京大学）

本セミナーでは保育、教育の専門家を学外から招き、ペダゴジーのあり方について集中的に議論をした。現在日本でもレジジョエミリアの思想や実践はよく知られており、ペダゴジカル・ドキュメンテーションという記録のあり方についても書籍などが活発に出版される状況になっている。しかし、必ずしもその理解は一様ではなく、時には記録手続きの問題や見栄えのよい作品作りにものみ焦点があてられることも多い。それに対して本セミナーではイタリアのレジジョエミリアの本来の用法、思いを受けとめた上で、スウェーデンでの理解のされ方が確認された。日本の保育、教育をより良いものとしていく上でこうした概念装置や方法論がどのように役立つのか深い議論がなされた。なお、このセミナーの招聘研究員以外のゲスト(通訳、討論者)の必要経費は、このセミナーを主催した基盤研究(B)「言語的文化的に多様な子どもたちのパフォーマンスアートに媒介された学習活動の研究」(17H02710)の助成を受けた。また、両セミナーとも本学教育学科の後援を受けた。それぞれに謝意を表したい。



発達心理学会で本セミナーを告知したこともあり、学外から多くの研究者、実践者が集まったことで、本学の学術研究について注目が集まったと考えられる。また、このセミナーも7回目となり、既に学外にも定着していることから今後も教育について世界的動向を知る場として期待するとの声をいただいている。学部生、院生もセミナーに参加したり、セミナー後にさらに研究指導を受けたりするなどして大いに触発されたようである。

(特記事項) 本学との学術協定(学部間・研究所等間を含む)の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。

Jonkoping 大学と立教大学の間には協定等は現在存在しない。しかし、受け入れ教員である石黒が 2016 年度半期同大学で客員研究員として在籍し、**Lecusay** 博士らと共同調査を行ったり、セミナーを実施したりした。昨年度この招聘制度を使い、同じ学科に所属する **Monica Nilsson** 氏を招聘したことにより、立教大学でセミナーを開催することができた。ここには学内の教員、院生、学部生は元より、日本全国の研究者、実践者がに集まり、スウェーデンの就学前教育に対する関心の強さを知ることができた。**Lecusay** 博士のセミナーはそうした共同研究の延長線上に位置付くものである。こうした関係を継続することによって同大学と立教大学の間で、実質的な研究協力関係、教育における連携がなされていくことであろう。また、立教大学と同大学関係者の間で継続的に研究交流をしていることは、在日スウェーデン大使館も承知しており、いずれ何らかの共同企画を考えたいという声もいただいている。